

別記第3号様式

平成17年度事後評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	2	研究課題名	沙流川流域の「神謡」の音楽構造と歌唱様式についての調査研究						
事業区分	※重点領域・一般試験等 一般試験		研究区分	研究	試験	調査	分析	研究期間	11年度～16年度
共同研究機関 (協力機関)	なし							全 所 要 額 (千円)	701 (一財 701)
研 究 の 概 要			○ 研究背景 ・アイヌの伝統的な口承文芸には旋律にのせて語るものがあるが、それがどのように行われるかについて音楽学の立場からの研究は少ない。また口承文芸を含めたアイヌ音楽全般における旋律の構造や歌唱様式、音楽的な傾向や規則性の詳細も今のところ研究途上にある。 ○ 研究目的 ・沙流川流域を対象に既刊の音声資料などを用い、口承文芸の一ジャンルである「神謡」について旋律の構造、傾向、規則性などを明らかにする。 ○ 研究内容 ・既刊の音声資料より沙流方言話者による神謡を分析的に聴取し、各曲の特徴を比較検討する。 ○ 研究実績 ・平成11 ～13年度：既存の資料より1曲の神謡を試験的に選び（「クモの神の自叙」、音楽構造分析、 仮説の構築。検証対象とする既刊の資料の選定。 ・平成14年度：既刊の資料について、採譜・分析作業。参考とする他機関資料の調査。 ・平成15年度：既刊の資料について、前年度と同様の作業。他機関の所蔵する音声資料の調査。 ・平成16年度：既刊の資料について、前年度と同様の作業。全曲を比較検討しての最終的とり まとめ。 直近の研究課題評価結果 平成15年度 中間評価 【自己評価】 A・B・C 【総合評価】 A・B・C						
研 究 の 成 果			○ 具体的な成果及び研究目標の達成度 ・30曲以上の沙流川流域の神謡について旋律構造を分析し、その結果下記のような点を明らかにでき、当初の目標を達成できた。 ・対象とした神謡の旋律は、短いいくつかの旋律型を組み合わせで作られており、組み合わせ方にも一定のパターンがある。 ・テキスト（歌詞）を旋律にのせる時、語のアクセントと旋律への当てはめ方との間にある程度の規則性がある。 ・1行分の歌詞は決まった音型の組み合わせの枠内にリズム配分して歌われ、最後の2音節はほぼ同じリズム型をとる。 ○ 研究期間・経費の妥当性 ・期間、経費とも妥当であった。 ○ 他機関との連携 ・特になし。 ○ 新たな展開に向けた課題 ・同様の調査を他の地域に広げ神謡の旋律構造の地域差を解明していくことが考えられる。ただし現在のところ、他地域の神謡については音声で記録されたものが今回の沙流川流域のものと比べて少ないため、少ない事例から妥当な結果を得られるような方法の再検討が課題である。 目標の達成度 a・b・c 期間の妥当性 a・b・c 経費の妥当性 a・b・c 成果の有益性 a・b・c						
成 果 の 活 用 策			○ 活用される分野 ・神謡の音楽構造を明らかにすることによる、効率的な伝承や普及の手法への応用。 ・神謡以外のジャンルのアイヌ音楽研究への応用。 ○ 具体的な活用方策 ・本研究において得られた分析結果は、旋律の伝承されていない口承文芸の口演を復元する試みなどにおける参考資料とすることが期待できる。 ○ 成果の普及 ・平成11年度「クモの神の自叙」の音楽について（センター紀要6号に掲載） ・平成12年度「アイヌの「神謡」の旋律について」（第433回東洋音楽学会例会で発表） ・平成13年度「クモの神の自叙」の音楽について（続）」（センター紀要8号に掲載） ・研究課題の成果をまとめたものは研究紀要等に発表する予定（平成17年度を予定） 活用の可能性 a・b・c						
【自己評価】 A・B・C	【説明】 ・本研究は、神謡の旋律構造の解明分析であり、本研究によりその構造に一定のリズム、パターンが認められることを確認でき、今後の研究の展開に寄与できる研究であった。 （追跡評価の必要性 有・無）								
【総合評価】 A・B・C	【意見】 本研究は、口承文芸の一ジャンルである「神謡」の音楽構造を分析・解明するなど、所期の目標を達成し、十分な研究成果が得られている。今後は、本研究成果の積極的な普及・活用・応用を図り、「神謡」以外のジャンルへの展開、あるいは旋律の伝承されていない口承文芸の復元への試みなど、いまだ研究途上にあるアイヌ音楽の旋律の構造や歌唱様式等の解明に向けて取り組んでいくことが重要であることから、成果普及活用に努められたい。 （追跡評価の必要性 有・無）								

(A) 目標を達成し、十分な研究成果が得られている

(a) 極めて高い、適切である

(B) 目標を概ね達成し、一定の研究成果が得られている

(b) 高い、概ね適切である

(C) 目標の達成度が低く、十分な研究成果が得られていない

(c) 低い、改善の余地がある